



2026年3月18日

日本鉄道労働組合連合会

臼木秀剛衆議院議員

鉄道貨物へのモーダルシフトに向けた改革を要望！

3月6日、JR連合「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する臼木秀剛衆議院議員（国民民主党・比例北海道）が衆議院予算委員会にて質疑に立ち、JR貨物、JR北海道を巡る課題を取り上げた。

財政審の厳しい指摘に反論 JR貨物活用に向けたポジティブな改革を主張

臼木議員は次期総合物流施策大綱にて新モーダルシフトが掲げられる中、昨年11月に財政制度等審議会が示した「JR貨物はシェアが長きにわたり横ばいであり抜本的改革を検討すべき」との指摘は「大変厳しい意見」と評し、国土交通大臣の受け止めを確認。金子恭之大臣は「JR貨物が期待される役割を発揮できるように指導、監督していく」と述べ、「私も同意見」と臼木議員に賛同した。



臼木議員

続けて臼木議員は、「求められるのは財政審が示すネガティブな改革ではなく、鉄道貨物の優位性を最大限活用するポジティブな抜本的改革である」と主張した。加えて、その実現には「2026年度末に期限が迫る線路使用料に関するJR会社間協定の更新やアボイダブルコストルールの改定といった課題解決が必要」と説くとともに、JR北海道が抱える黄線区問題に言及し、各線区の利用特性を踏まえた議論が行われる中で、「鉄道貨物の活用、防災・環境・食料安全保障等とのポリシーミックスの観点も考慮すべき」と要望し、「ポジティブな抜本的改革には政治的決断が必要」と訴えた。金子大臣はこれに対し、鉄道貨物の社会的意義を認めたいうえで、輸送力の増強等に向けた支援に取り組む意思を示した。

最後に、鉄道予算の拡充を求めたところ、舞立昇治財務副大臣が答弁に立ったが、「国交省と適切に連携し対応する」と述べるに留まった。